

企業調査結果
<2022卒インターンシップ活動に関するアンケート>

本資料に掲載されている各種データは、特記なき限り、下記の調査に基づいています。

■ 調査内容：「22卒採用夏インターンシップ」と「22卒採用冬インターンシップ」についてのアンケート調査

■ 調査実施期間：2020年9月21日（月）～2020年10月2日（金）の12日間

■ 調査対象：株式会社ワークス・ジャパンと名刺交換をさせて頂いたことのあるお客様（首都圏・名古屋・関西主要企業）

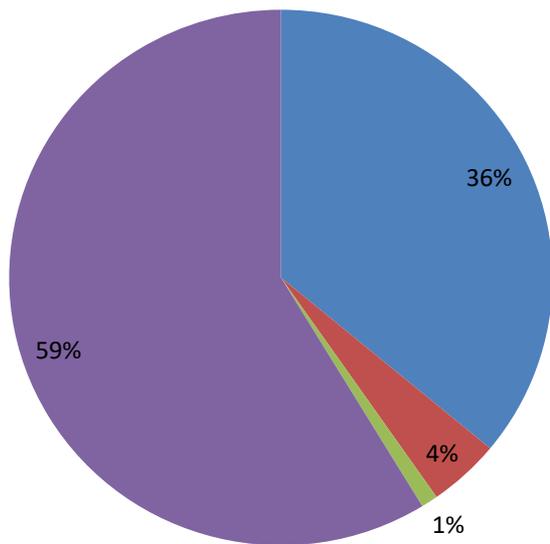
■ 調査方法：上記対象名のメールアドレスにメールを配信
WEB上のアンケートフォームより入力

■ 有効回答数：229社

※調査結果は、四捨五入等によりグラフおよび表の和が100%にならない場合もございます。予めご了承ください。

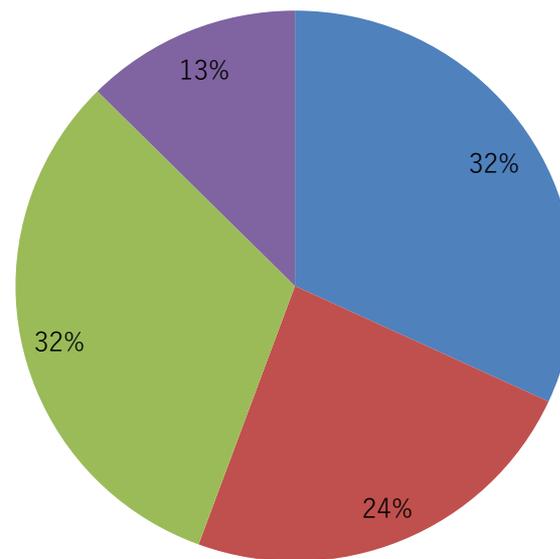
弊社では、皆様の現状についてお聞かせいただき、集約することで、今後の採用・就職支援活動にお役に立てていただきたいと考えております。本調査が、新卒採用活動の一助になりましたら幸いです。

【加盟団体】



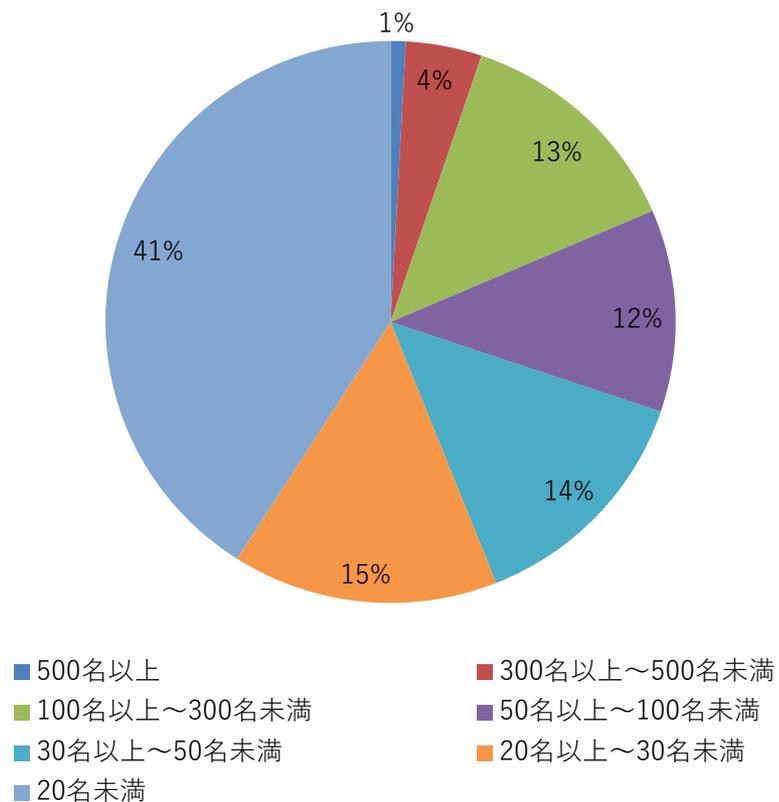
■ 日本経済団体連合会（経団連） ■ 日本商工会議所
■ 経済同友会 ■ 加盟していない

【従業員数】

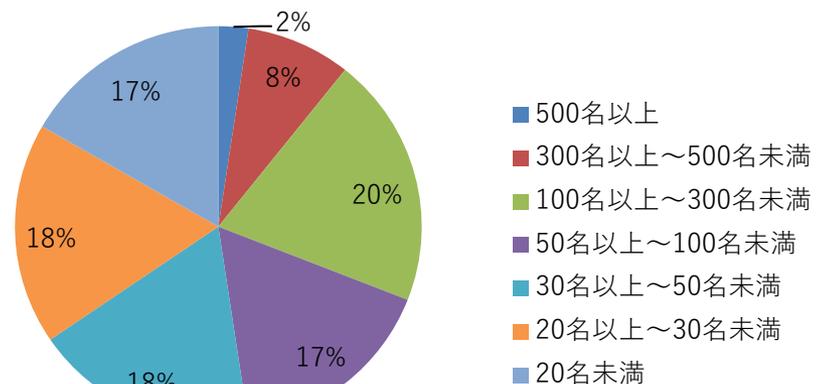


■ 3000名以上 ■ 1000名以上～3000名未満
■ 301名以上～1000名未満 ■ 300名以下

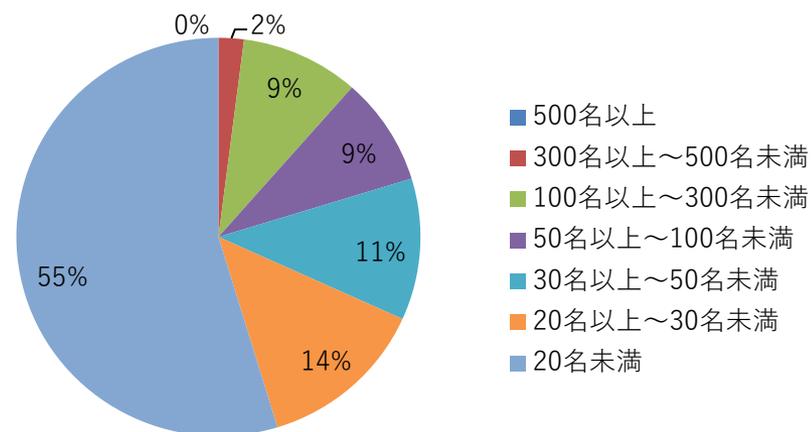
【全体】



【経団連加盟企業】

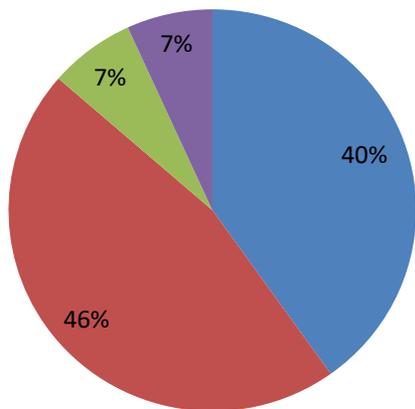


【非経団連加盟企業】



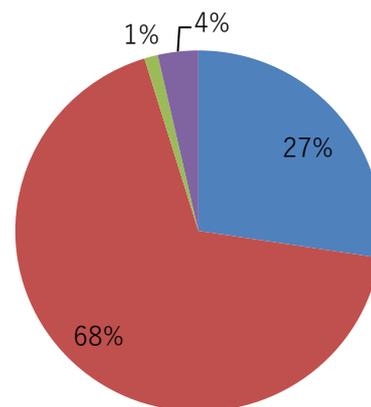
内定式については、対面での開催、オンラインでの開催、どちらも同じような割合で開催された。経団連加盟企業はオンラインでの実施、非経団連加盟企業は対面での実施が割合として高かった。

【全体】



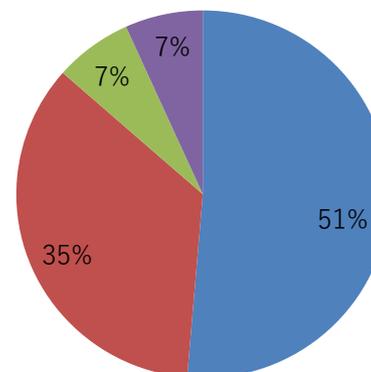
- 対面（本社や工場など対面での実施）
- オンライン（web会議システムなどインターネット上で実施）
- 実施しない
- その他（具体的に）

【経団連加盟企業】



- 対面（本社や工場など対面での実施）
- オンライン（web会議システムなどインターネット上で実施）
- 実施しない
- その他（具体的に）

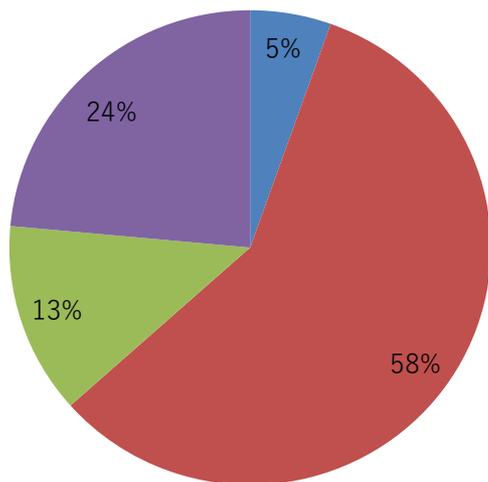
【非経団連加盟企業】



- 対面（本社や工場など対面での実施）
- オンライン（web会議システムなどインターネット上で実施）
- 実施しない
- その他（具体的に）

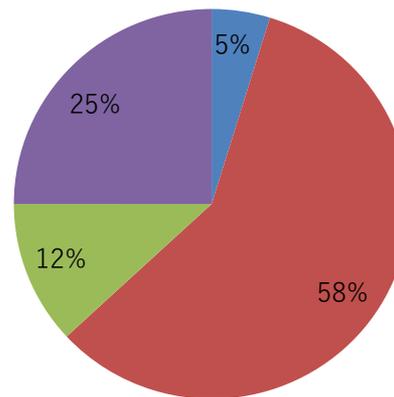
22採用の採用人数は「21採用での採用人数と同等」と回答した企業が全体の58%。
21採用と同等の採用人数を計画している企業が半数以上を占めている。

【全体】



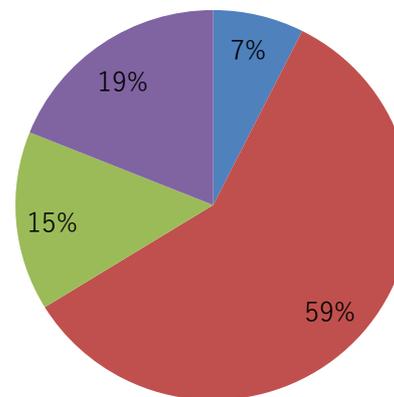
■ 採用数を増やす ■ 昨年と同等 ■ 採用数を減らす ■ 未定

【経団連加盟企業】



■ 採用数を増やす
■ 昨年と同等
■ 採用数を減らす
■ 未定

【非経団連加盟企業】

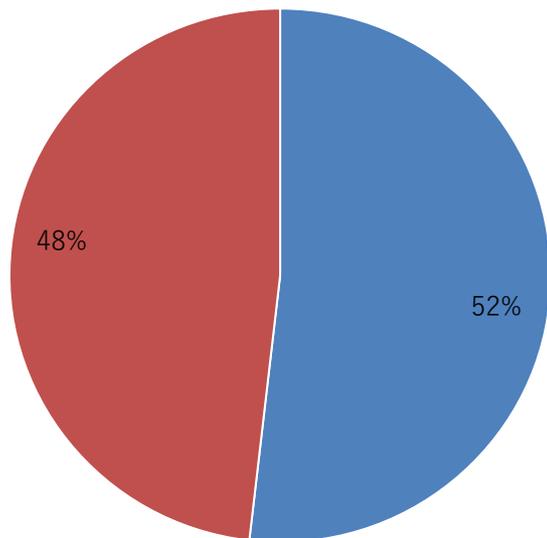


■ 採用数を増やす
■ 昨年と同等
■ 採用数を減らす
■ 未定

<2022卒向け6月～9月開催のインターンシップについて>

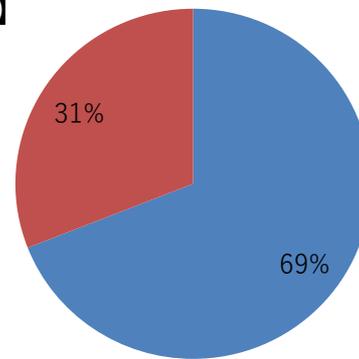
2020年6月～9月にインターンシップを開催した企業は全体の52%。経団連加盟企業については、全体の69%が夏のインターンシップを実施している。非加盟企業は全体の48%と、違いが出ている。

【全体】



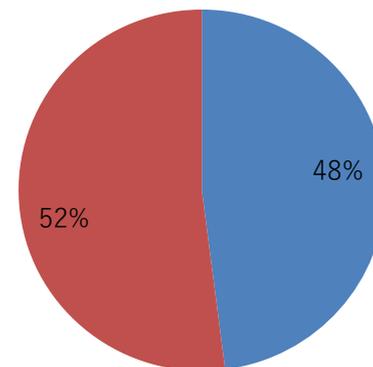
■ 実施した ■ 実施しなかった

【経団連加盟企業】



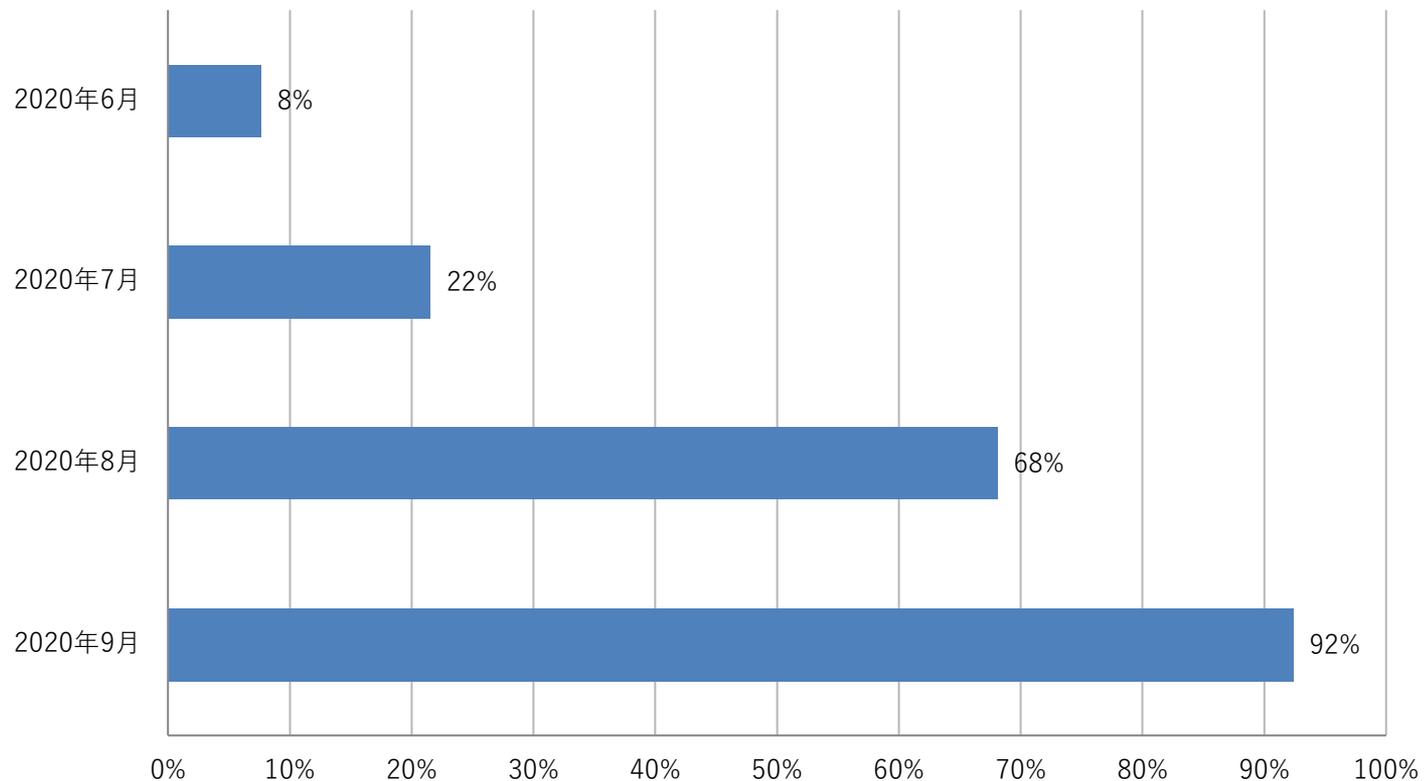
■ 実施した ■ 実施しなかった

【非経団連加盟企業】

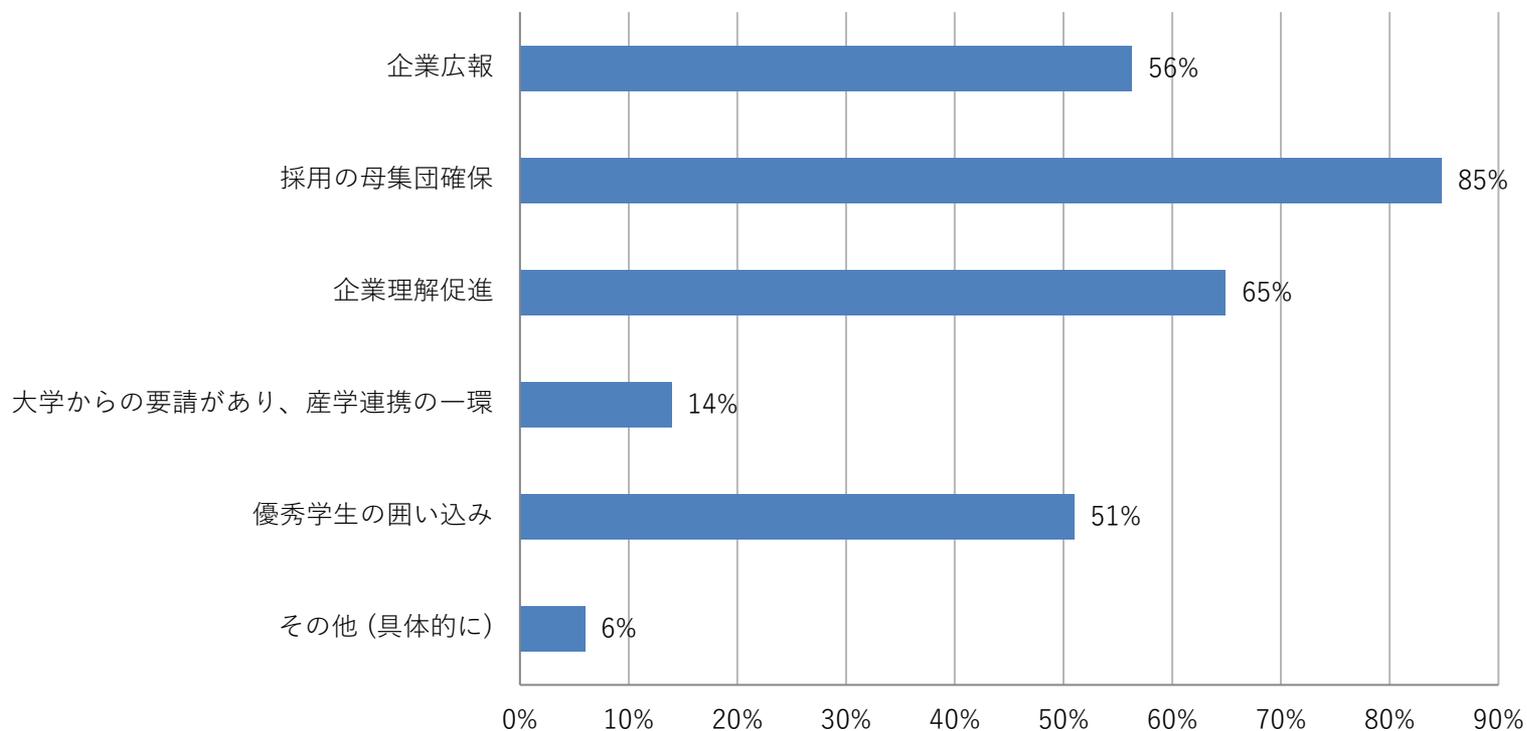


■ 実施した ■ 実施しなかった

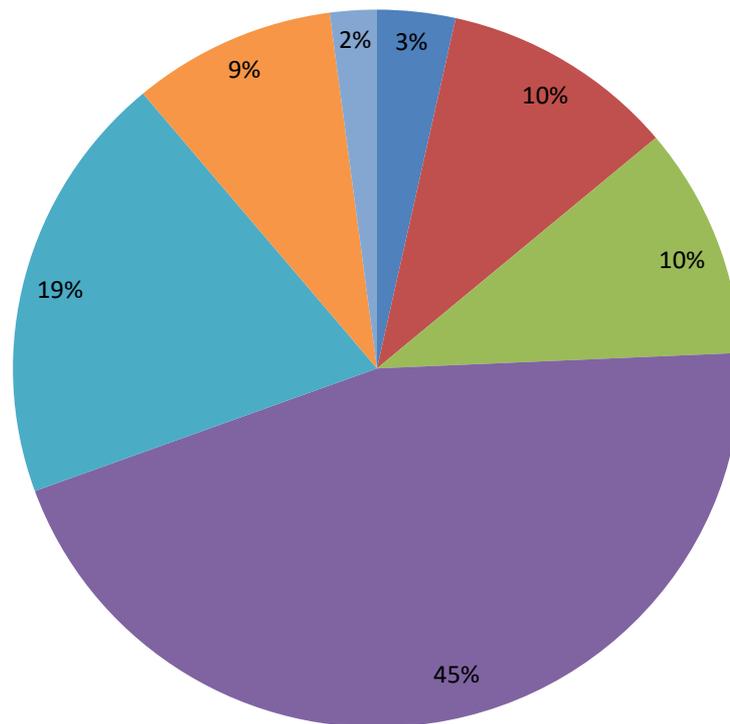
夏インターンシップは8月、9月の実施が主流。
テスト等学事日程を鑑みながら、学生が参加しやすい時期に実施している。



夏インターンシップを実施する目的として、「母集団確保」が一番多く、次いで「企業理解促進」「企業広報」「優秀学生の囲い込み」といった回答が並ぶ。インターンシップが採用活動のスタートといえる。

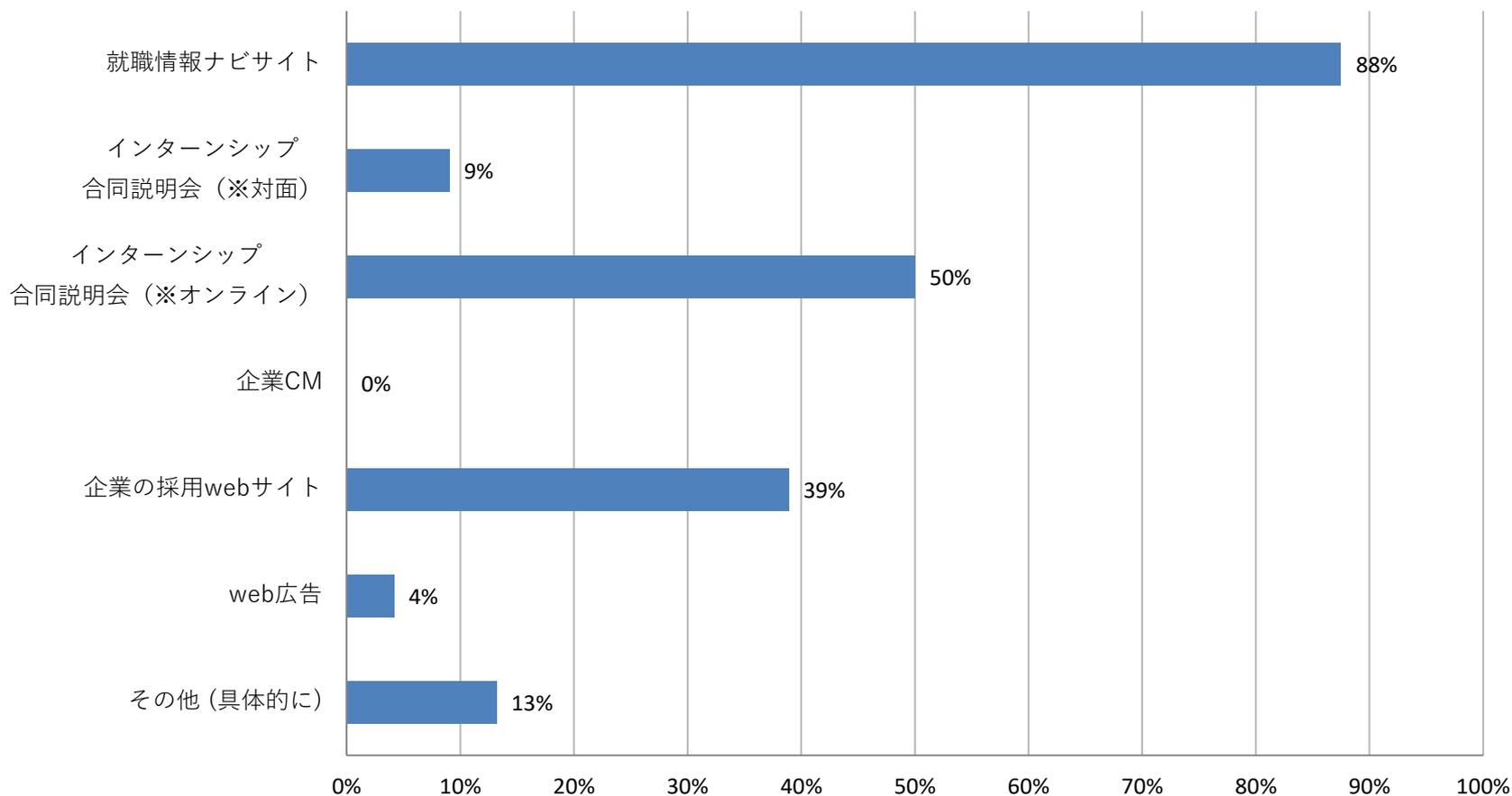


全体の約7割が6月までにインターンシップ広報を開始していると回答している。
前述の通り、8月9月に実施とした場合、6月の就職情報ナビサイトの活用が適当だった。

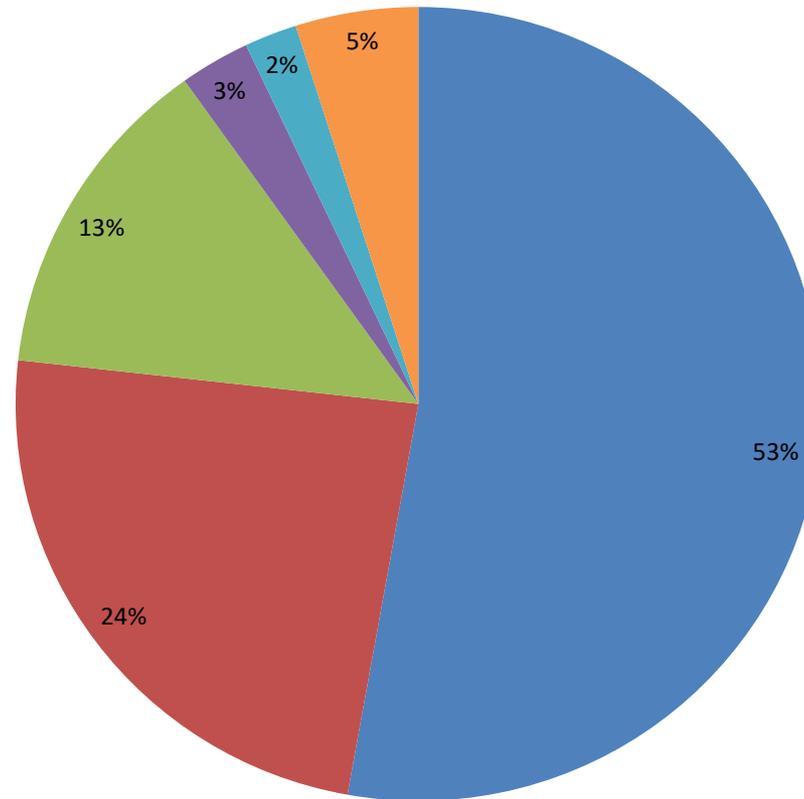


■ 2020年3月よりも前 ■ 2020年4月 ■ 2020年5月 ■ 2020年6月 ■ 2020年7月 ■ 2020年8月 ■ 2020年9月

インターンシップ告知にあたって、ナビサイトだけでなく、
オンライン合同説明会への出展や採用HPを用いた告知も実施されていた。



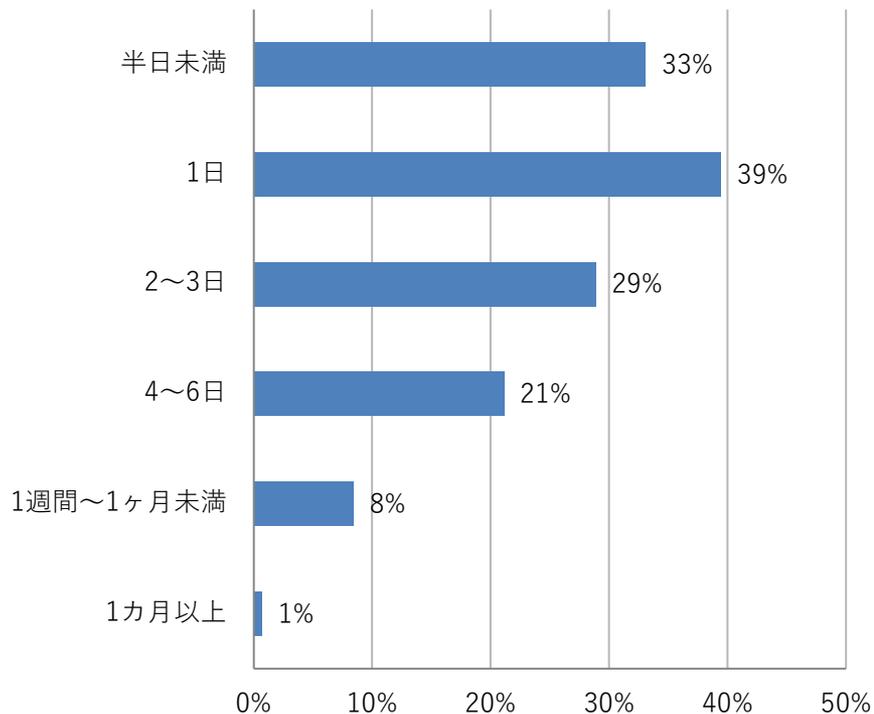
インターンシップの開催回数は1～5回と回答した企業が53%。



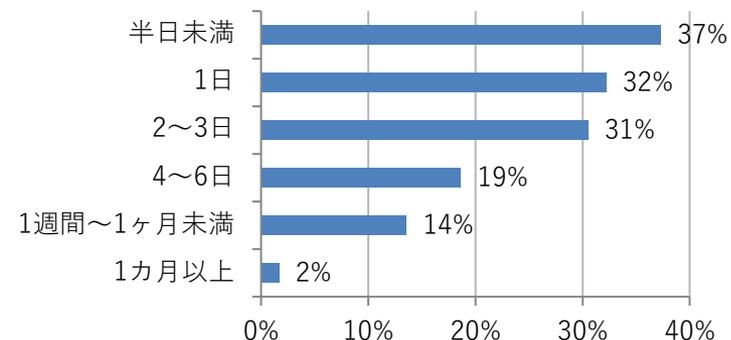
■ 1回～5回 ■ 6回～10回 ■ 11回～15回 ■ 16回～20回 ■ 20回～25回 ■ 25回以上

全体では、「1日」次いで「半日未満」が多い。
 経団連加盟企業では半日未満の開催だけでなく、1カ月程度の開催まで幅広く実施している。
 非経団連加盟企業では、半日未満から2～3日での実施が多い。

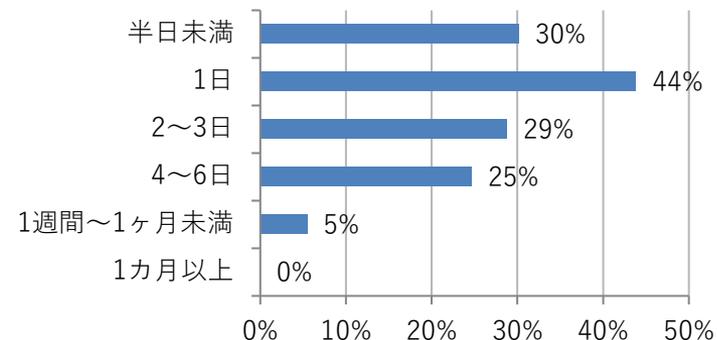
【全体】



【経団連加盟企業】

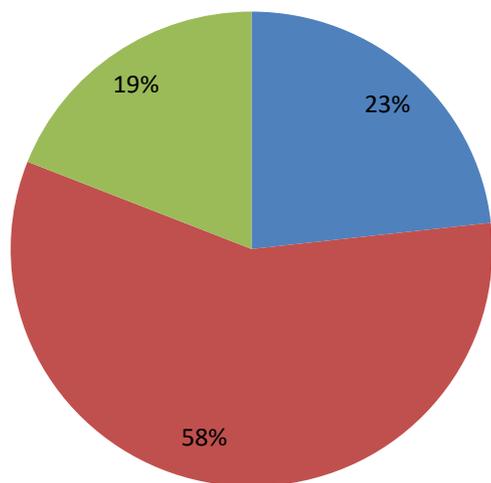


【非経団連加盟企業】



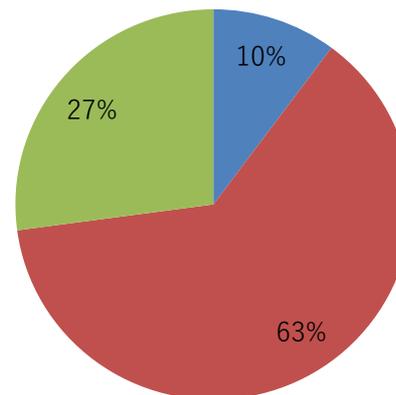
インターンシップをオンラインで実施した企業は全体の約6割。経団連加盟企業では「オンライン」に次いで「対面とオンラインの両方」での実施、非経団連加盟企業では「対面」で実施した割合の方が「対面とオンラインの両方」よりも高くなっている。

【全体】



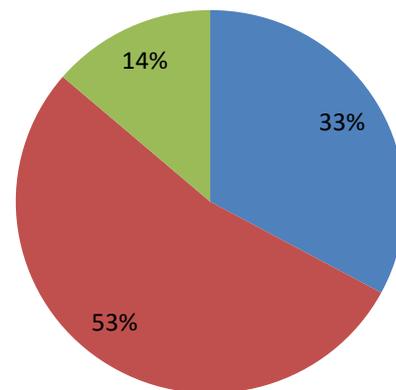
- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催した
- その他（具体的に）

【経団連加盟企業】



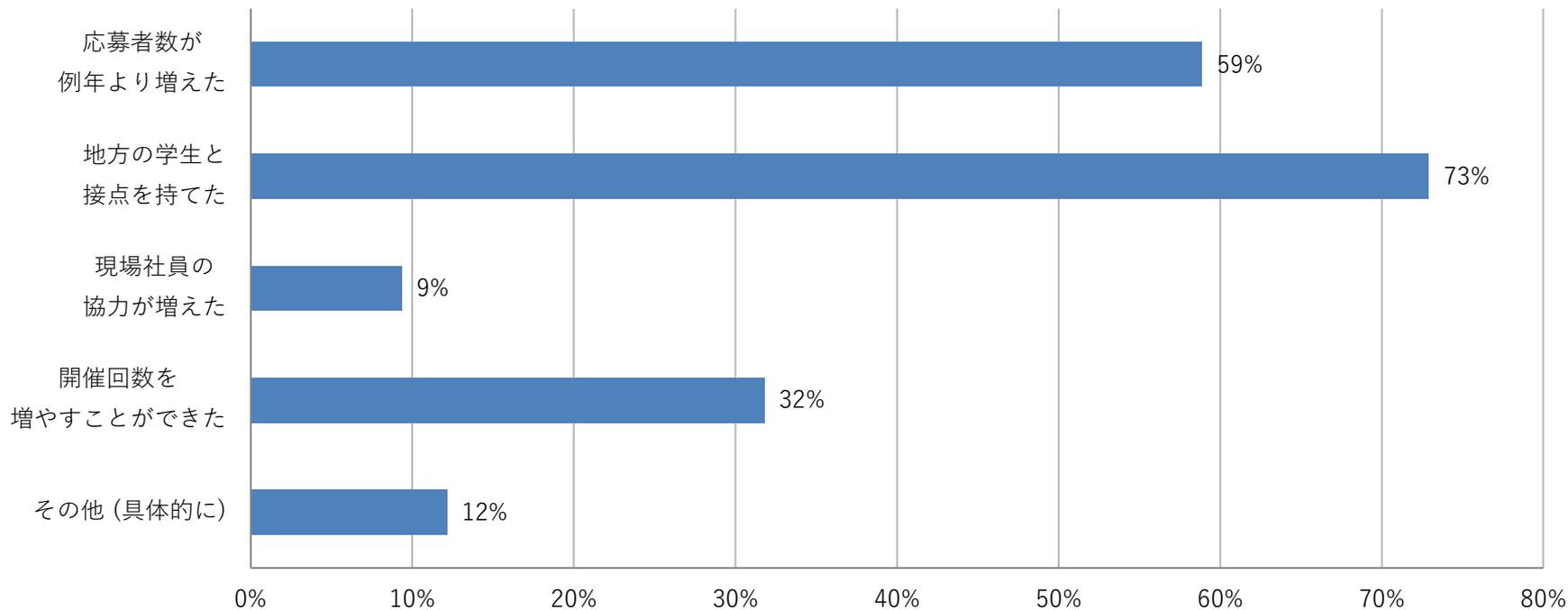
- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催した
- その他（具体的に）

【非経団連加盟企業】



- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催した
- その他（具体的に）

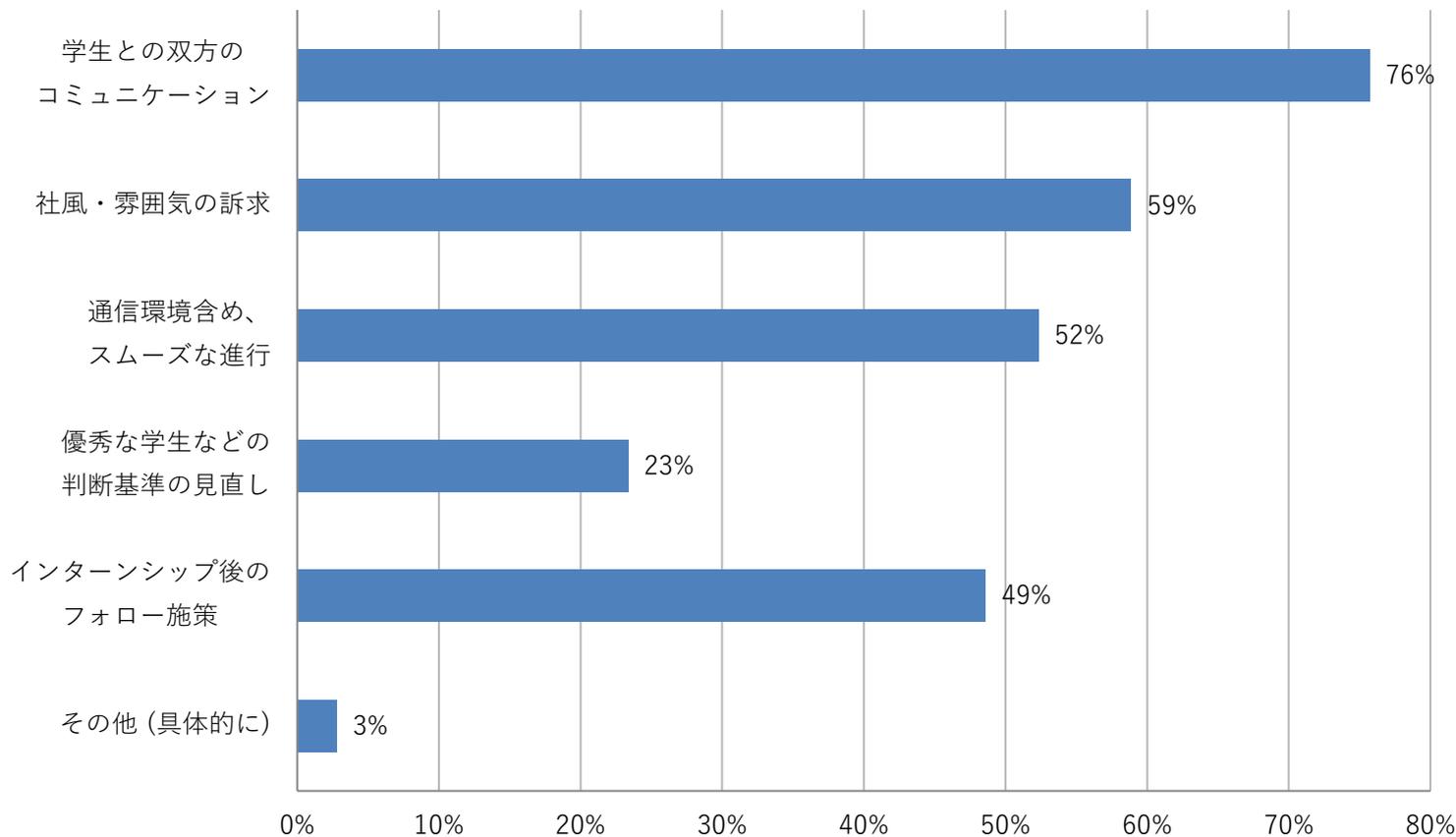
インターンシップをオンライン化した企業、もしくはオンラインでインターンシップを実施した企業は、「応募者の増加」や「地方学生と接点を持てた」といったメリットを感じている。



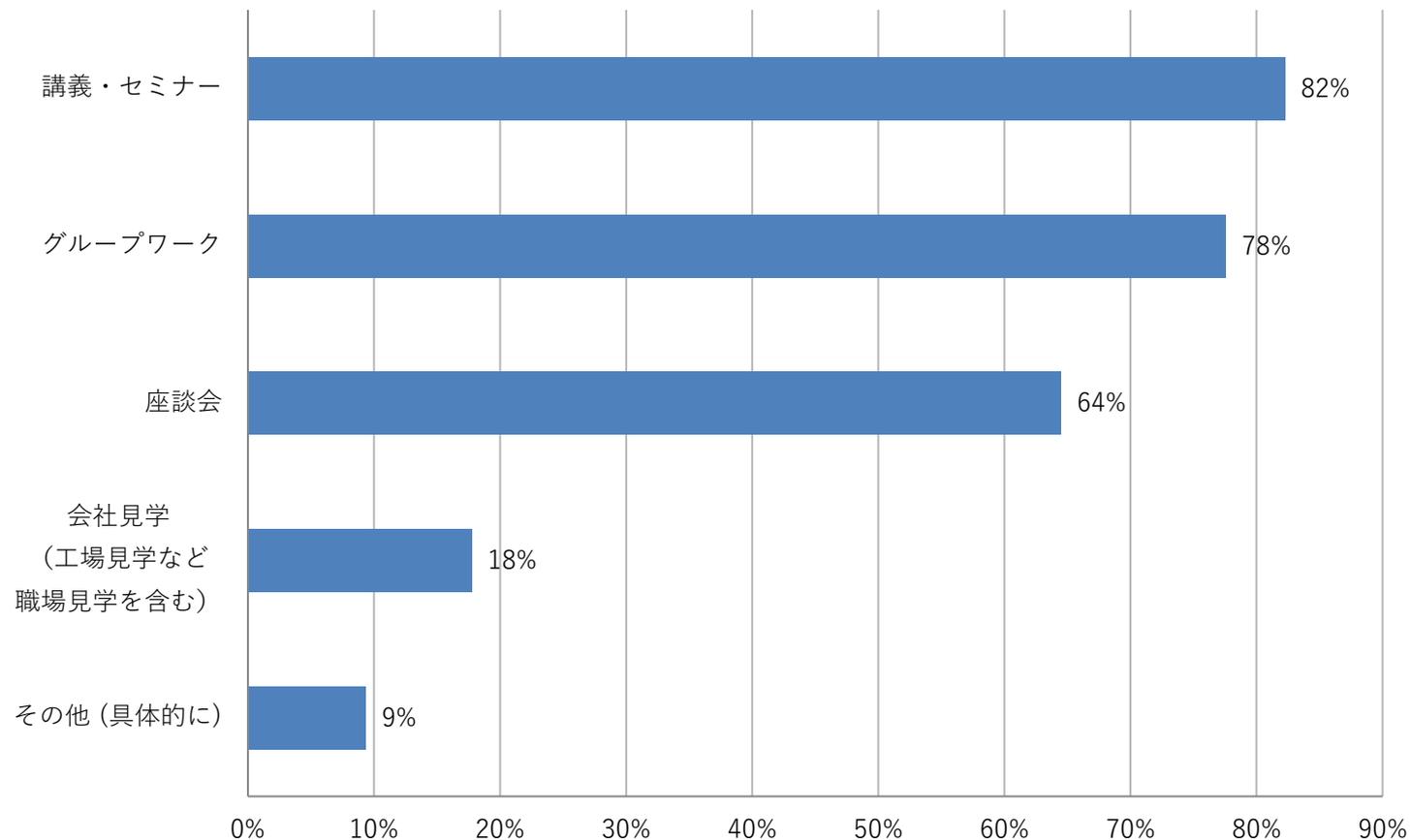
【その他】と回答した企業のコメント抜粋

- ・会場費の削減
- ・準備（会場手配、設営や備品等）が楽になった、移動時間が減った
- ・コロナの状況によらず実施できた
- ・事前準備や当日の設営などの手間が少なくなった
- ・今後増加が予想されるオンライン形式でのコミュニケーションを体感できた
- ・オンラインでもインターンシップ実習が可能だということがあった事

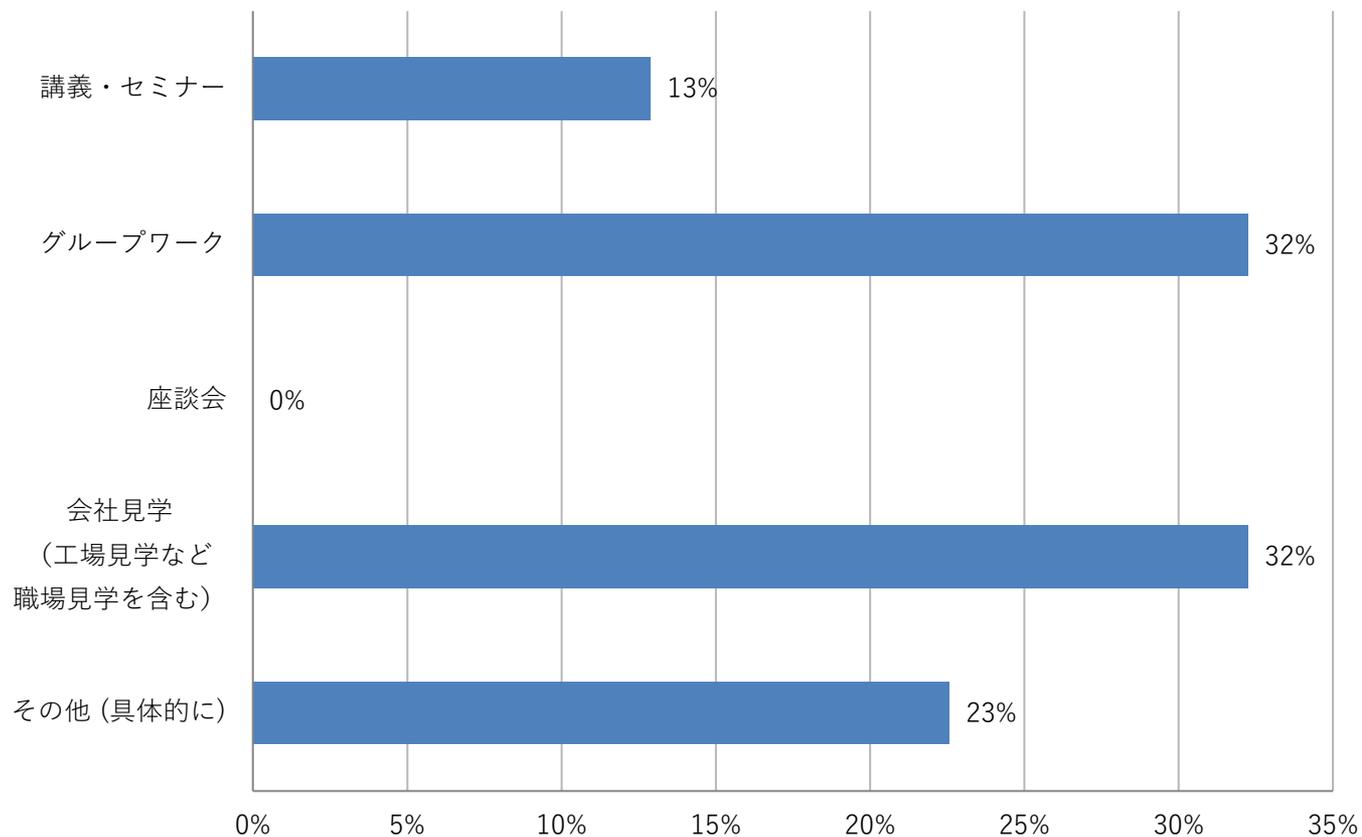
「学生との双方のコミュニケーション」や「社風・雰囲気の訴求」など、
昨年までは「対面」で実現できたこと、伝えられていたことがオンライン化によって課題になっている。
面談・座談会・リクルーター活動等、直接接触过して解消していた点の改善が必要である。



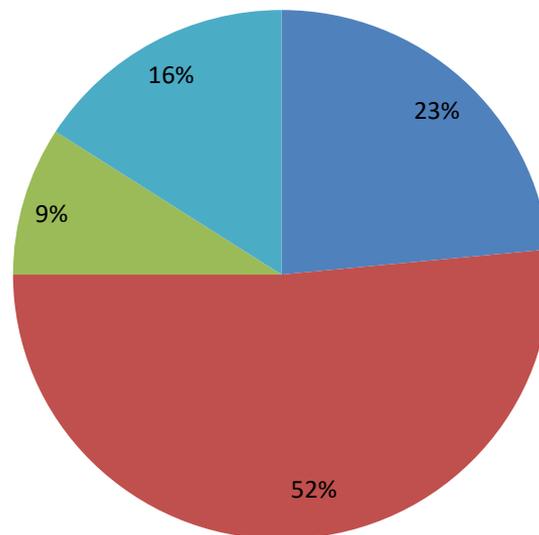
オンラインで開催されたインターンシップの内容として、「講義・セミナー」「グループワーク」「座談会」が回答の割合が高い。



対面のインターンシップでは、「グループワーク」や「工場見学」が実施内容として多かった。



夏インターンシップを実施しなかった理由として、もともと夏にインターンシップは実施していないという理由が一番で、全体の52%。新型コロナウイルスの影響を受けて中止した企業も23%ある。



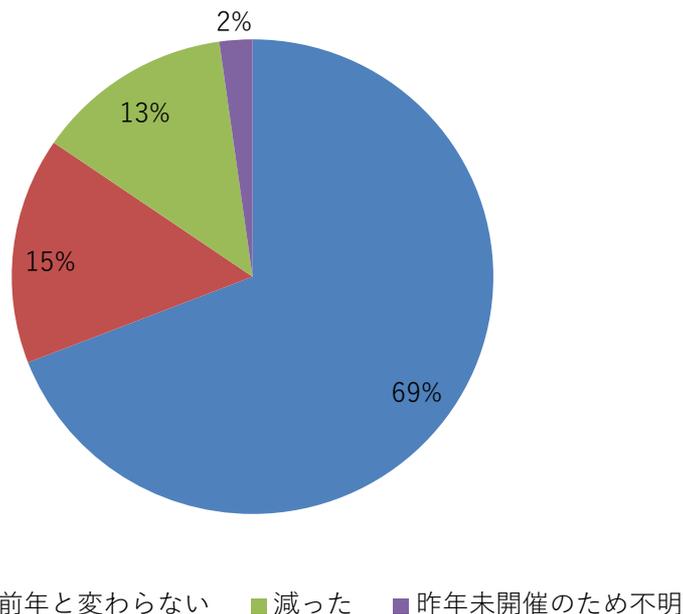
- 新型コロナウイルスなどの影響で急遽中止した
- 例年6月～9月の間では実施していないから
- 対面でインターンシップを開催したいため、秋以降に延期した
- その他(具体的に)

【その他】と回答した企業のコメント抜粋

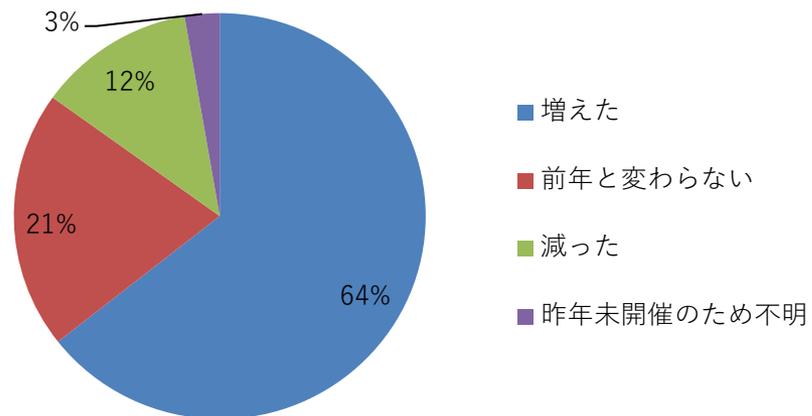
- ・採用活動が定まっていないため。(21採用は採用中止となった)
- ・昨年は実施したが、選考まで引っ張ることが難しく、実施を見送った
- ・新型コロナの影響で21採用が大幅にずれ込んだため
- ・来年度以降の採用計画が未定のため。
- ・オンラインインターンの新規製作をしているため

21採用と比べて、インターンシップの予約数が増えたと回答した企業は全体の約7割。
予約数が減ったと回答した企業は全体の約1割だった。

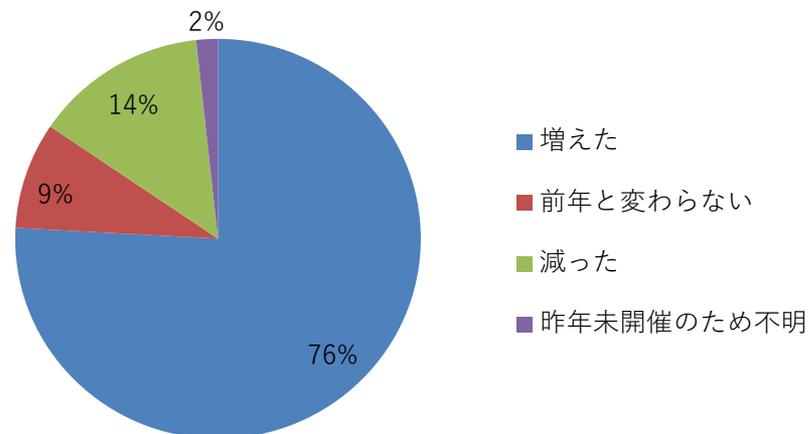
【全体】



【経団連加盟企業】

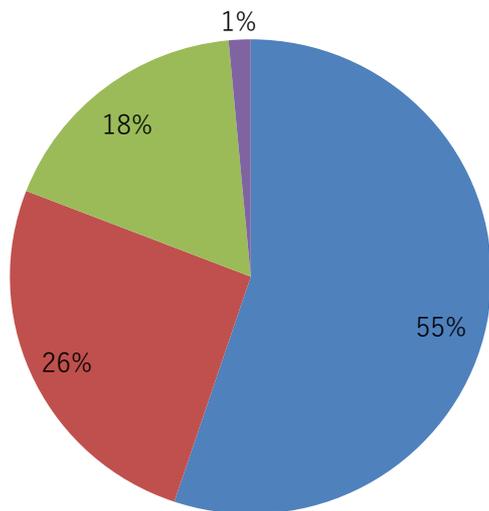


【非経団連加盟企業】



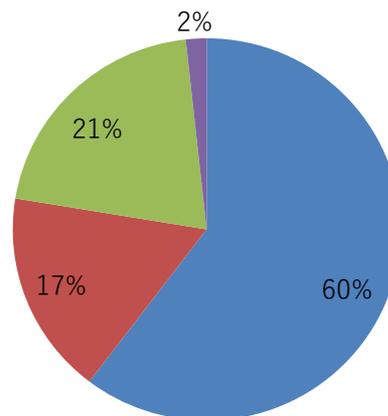
21採用と比べて、インターンシップの参加学生が増えたと回答した企業は全体の5割程度。
参加学生が減ったと回答した企業は全体の2割程度だった。

【全体】



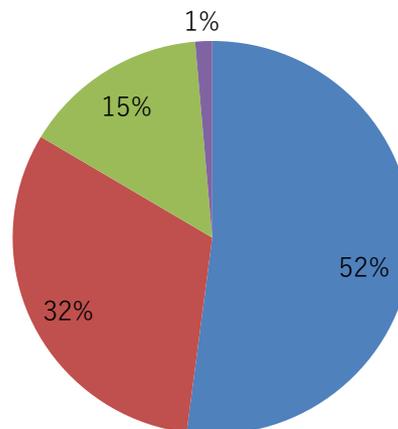
■ 増えた ■ 前年と変わらない ■ 減った ■ 昨年未開催のため不明

【経団連加盟企業】



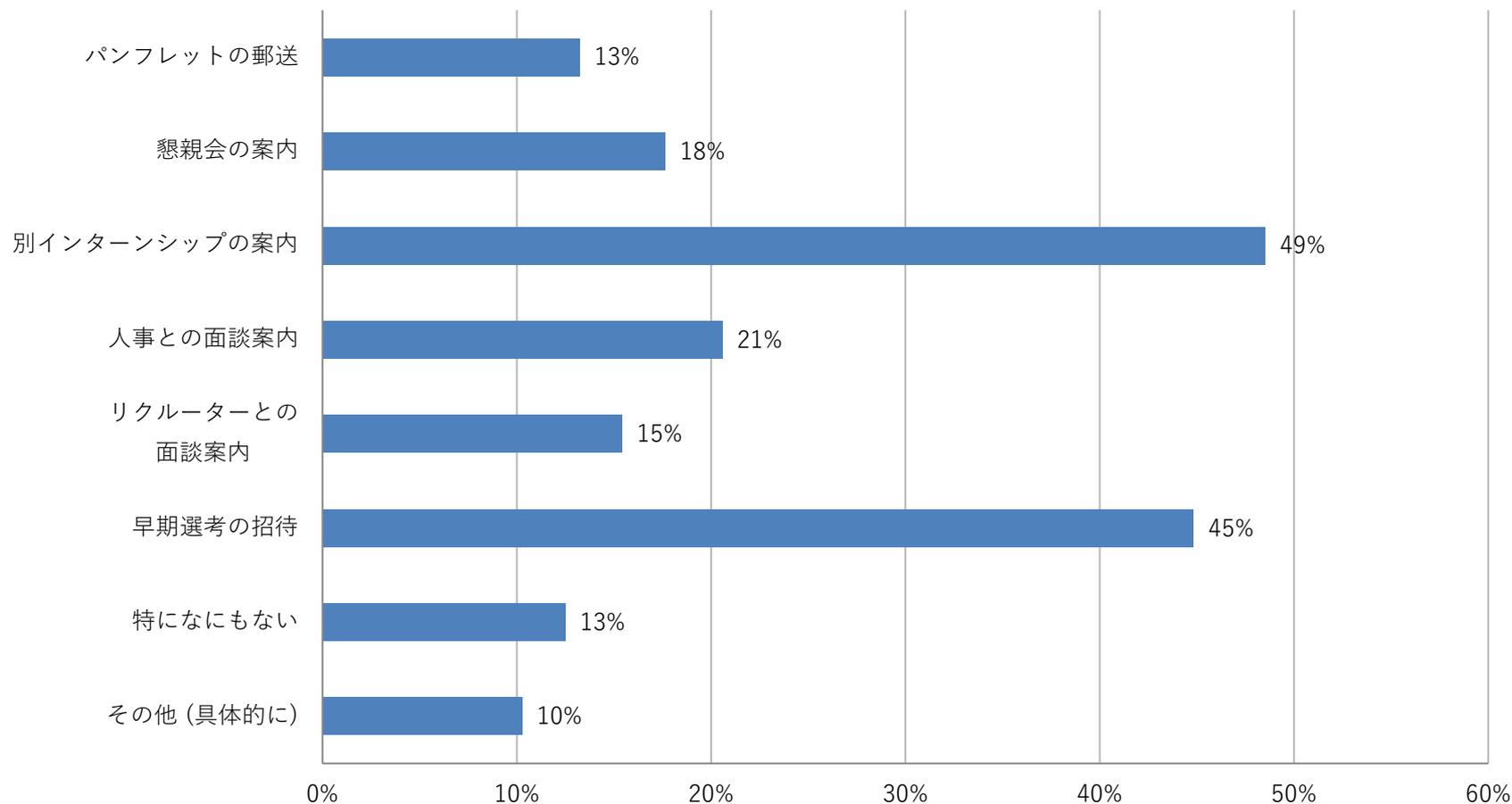
■ 増えた
■ 前年と変わらない
■ 減った
■ 昨年未開催のため不明

【非経団連加盟企業】

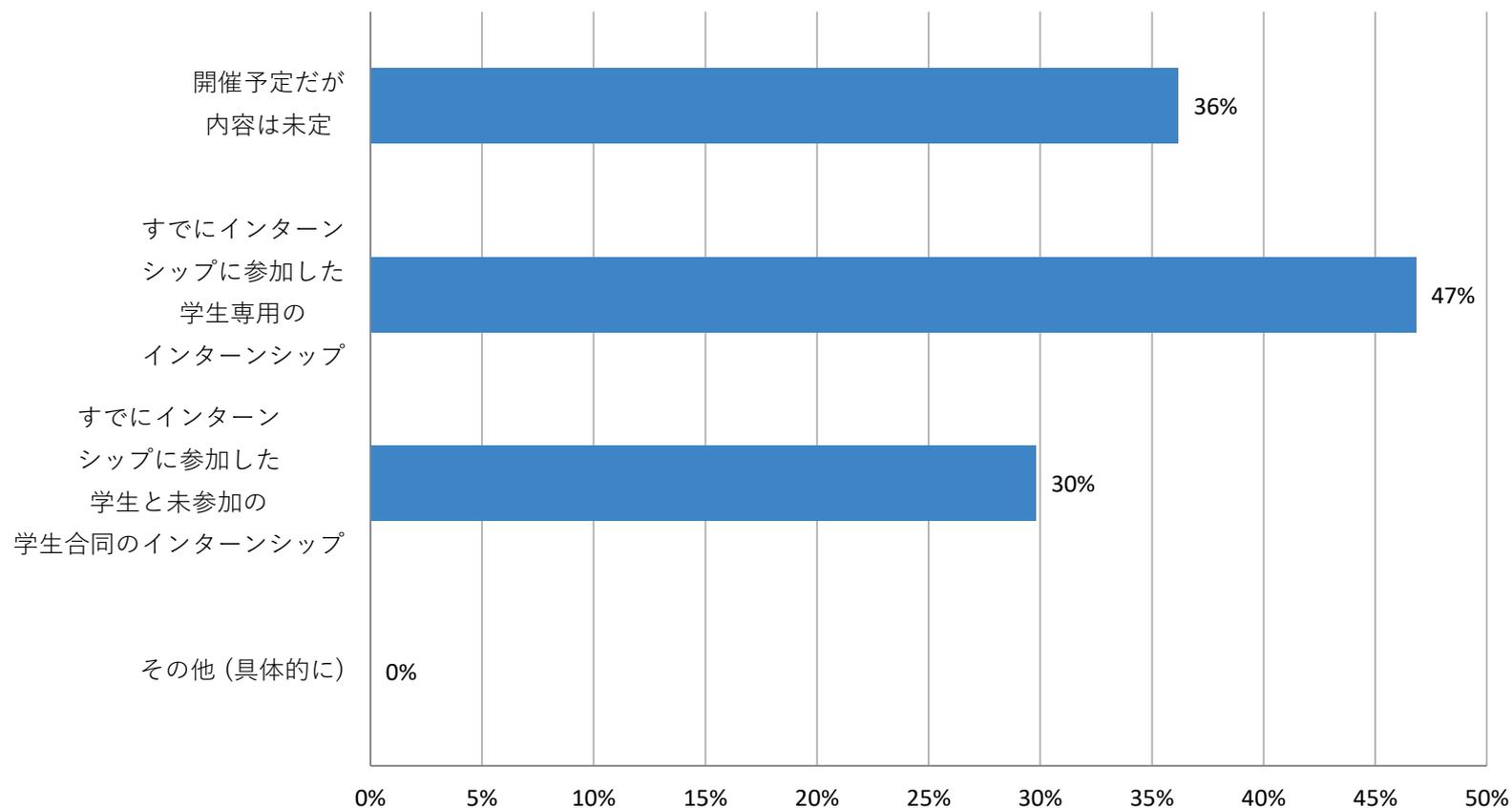


■ 増えた
■ 前年と変わらない
■ 減った
■ 昨年未開催のため不明

インターンシップ参加学生へのアクションとして、
「別インターンシップの実施」「早期選考の招待」が割合として高かった。



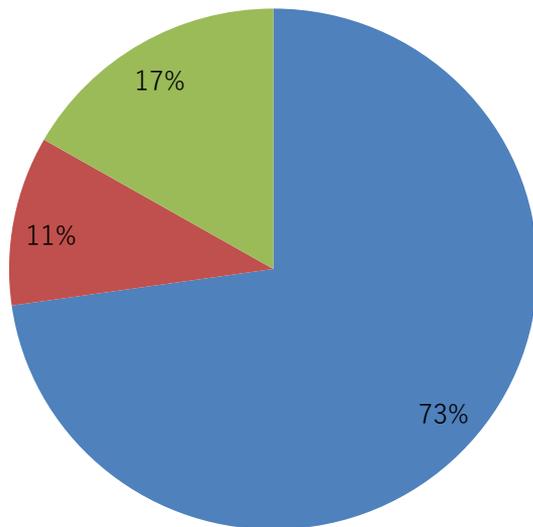
すでにインターンシップに参加された学生に対して、別インターンシップの案内をしようと
考えている企業が多いと読み取れる。一方で、開催内容が定まっていない企業も一定数いる。



<2022卒向け12月～2月開催予定のインターンシップについて>

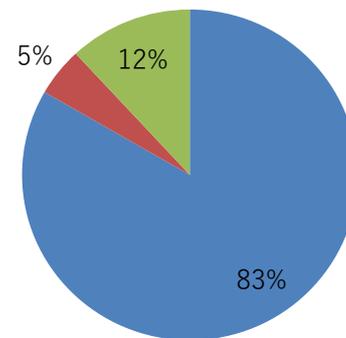
冬インターンシップを開催する予定の企業は全体の約7割。
経団連加盟企業では全体の約8割が冬インターンシップを開催すると回答している。

【全体】



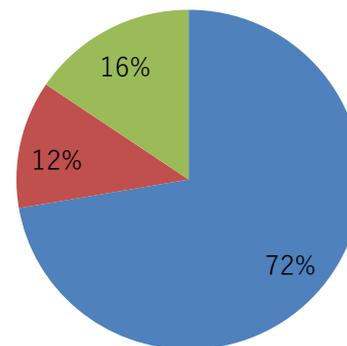
■ 実施する ■ 実施しない ■ 未定

【経団連加盟企業】



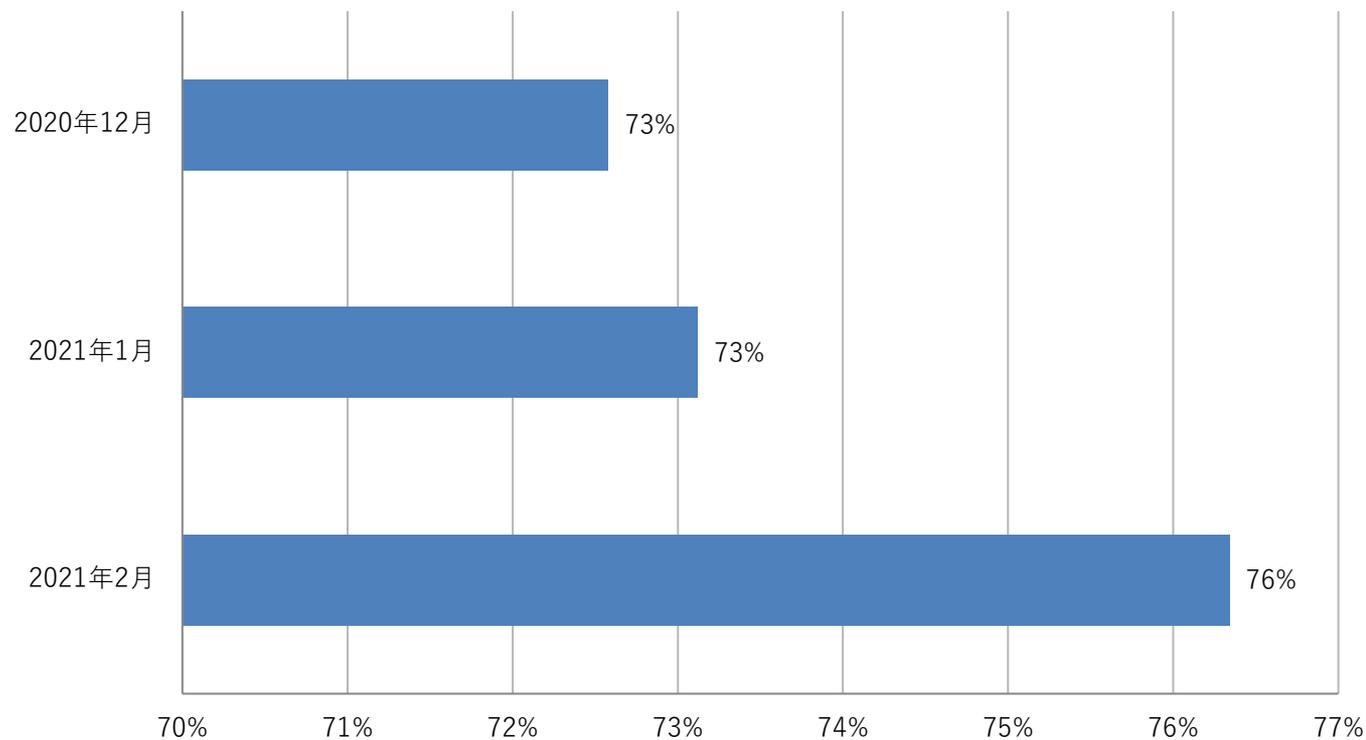
■ 実施した ■ 実施しなかった ■ 未定

【非経団連加盟企業】

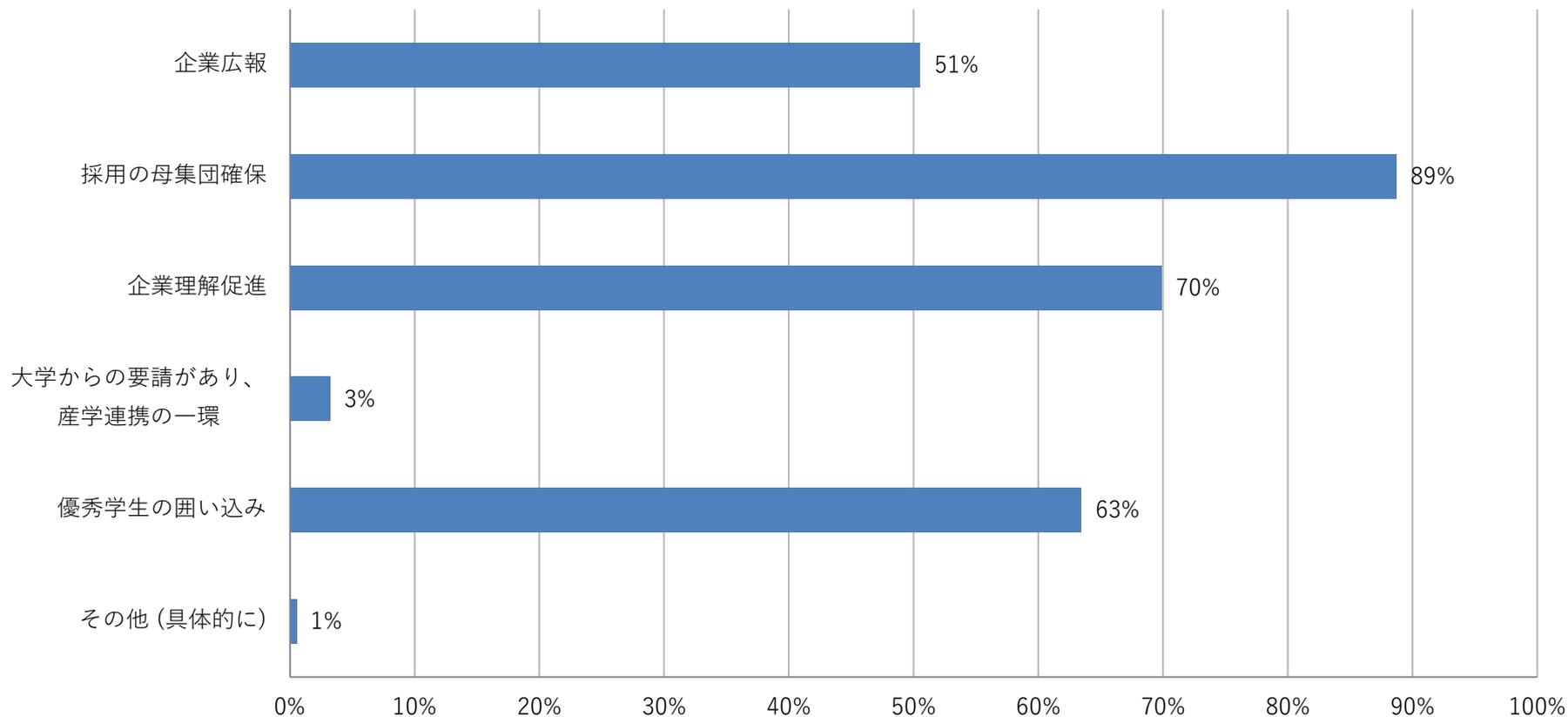


■ 実施した ■ 実施しなかった ■ 未定

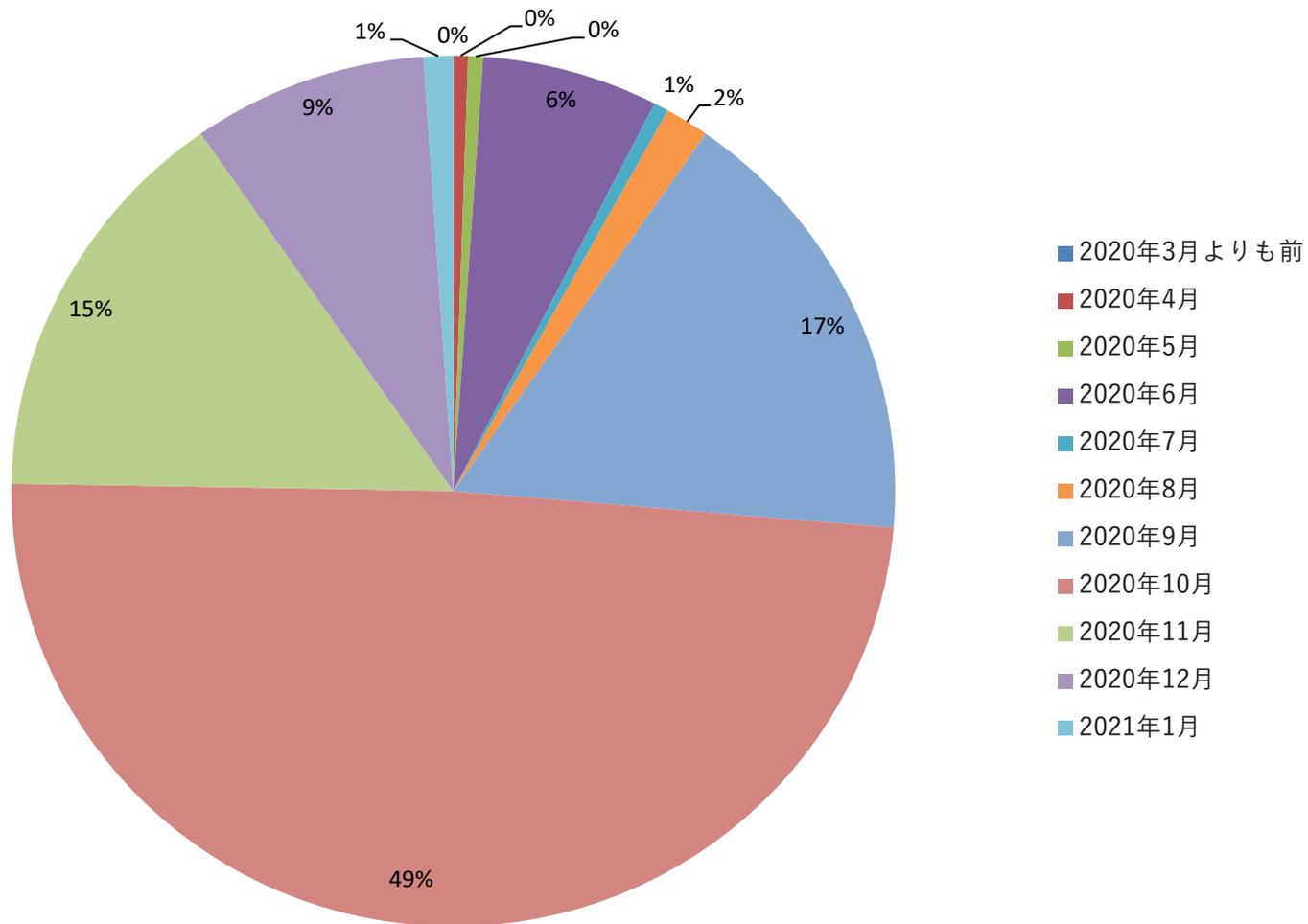
冬インターンシップは、12月、1月、2月とそれぞれの月で割合が高いが、一番割合が高いのは2月の開催。



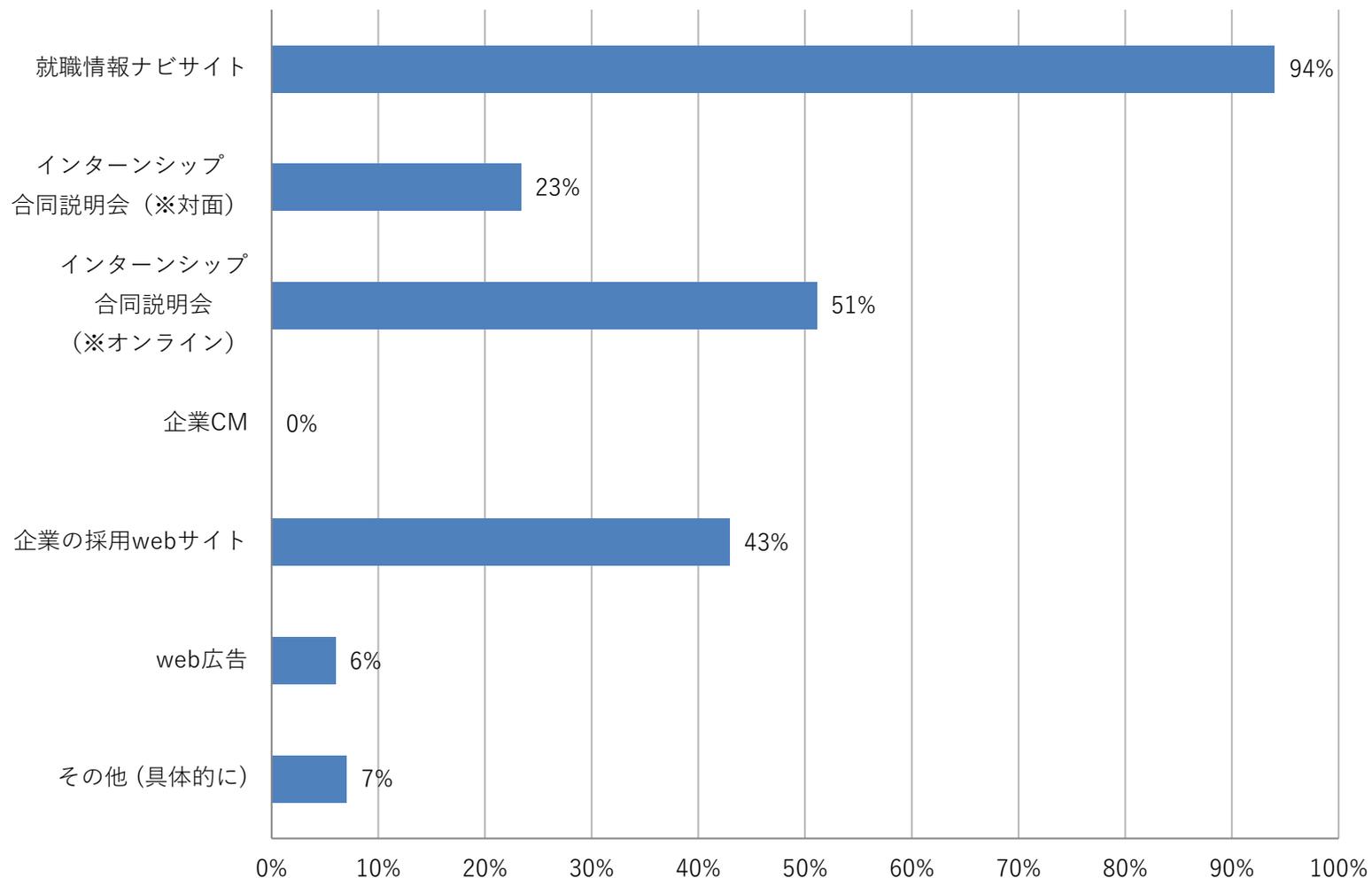
冬インターンシップを開催する目的は、「母集団確保」「企業理解促進」「優秀学生の囲い込み」が回答の割合が多く、夏インターンシップの開催目的と類似している。



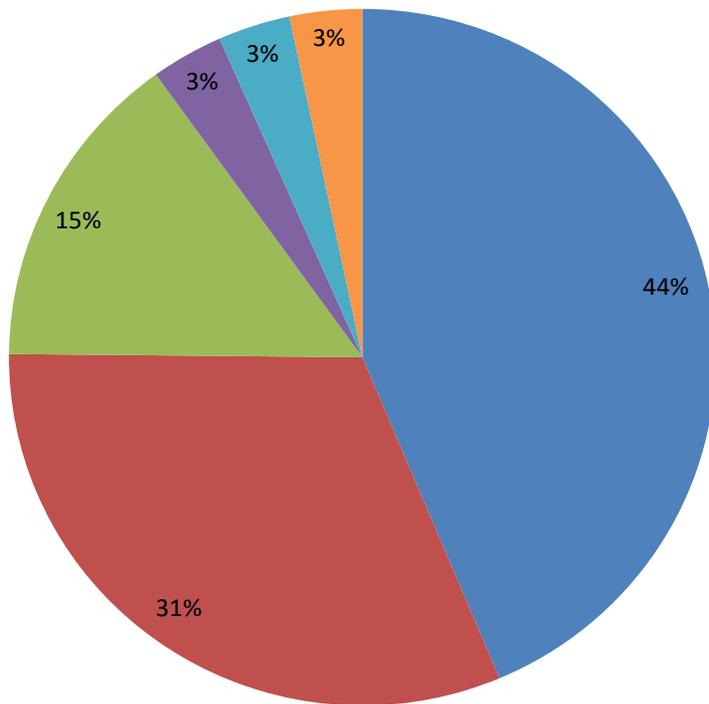
冬インターンシップに向けた告知は「10月」から開始するという回答が一番割合として高い。



夏インターンシップの広報手法と比べて、
「対面の合同説明会」への出展や「採用HP」を用いた告知が割合として増加している。



夏インターンシップの開催日数とほぼ同じ傾向回答結果で「1回～5回」の開催数が最も多い。

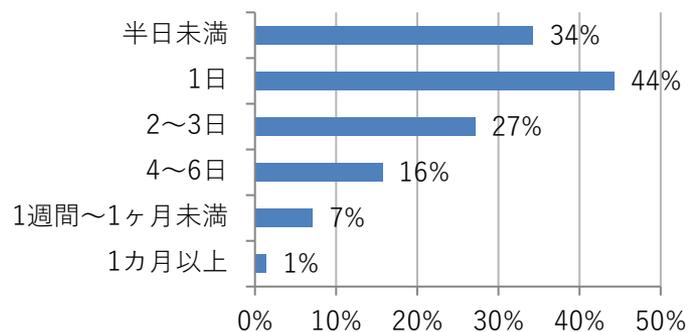
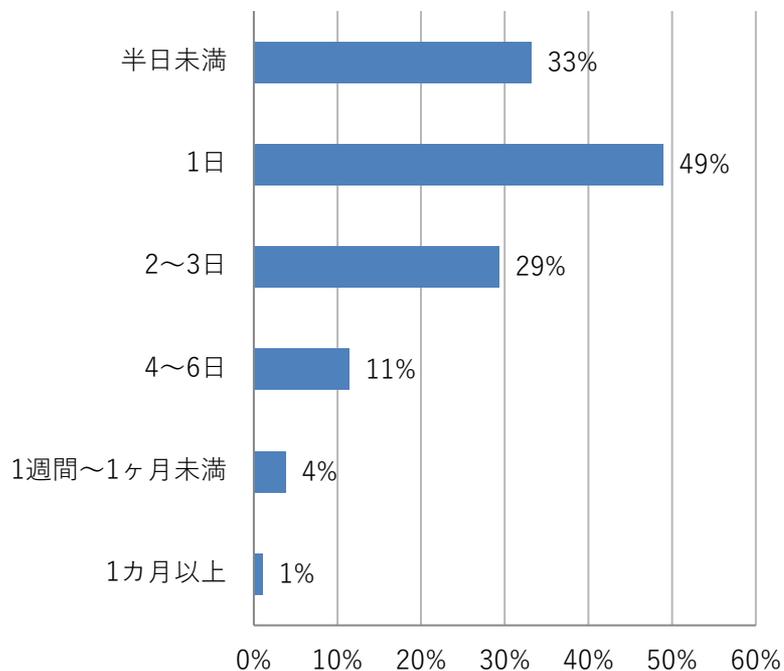


■ 1回～5回 ■ 6回～10回 ■ 11回～15回 ■ 16回～20回 ■ 20回～25回 ■ 25回以上

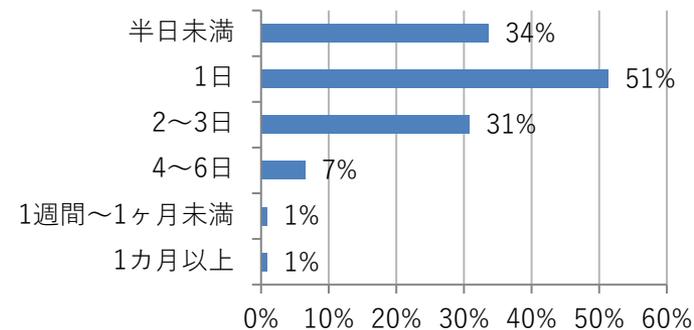
夏インターンシップに比べて、「1週間～1カ月」といった長期インターンシップの割合が減少し、「半日未満」や「1日」といった短期インターンシップの割合が増加している。

【経団連加盟企業】

【全体】

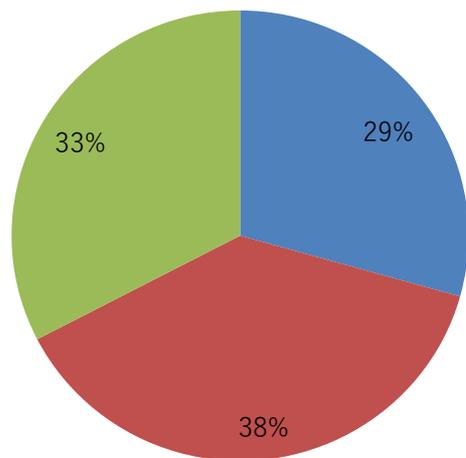


【非経団連加盟企業】



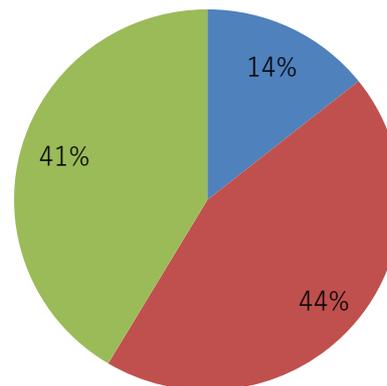
冬インターンシップの開催形式については意見が分かれている。
現状は経団連加盟企業ではオンラインでの実施、非経団連加盟企業では対面での実施が優勢。

【全体】



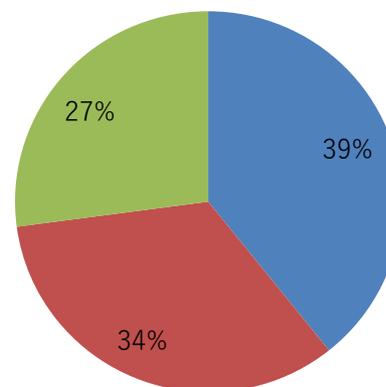
- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催予定

【経団連加盟企業】



- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催予定

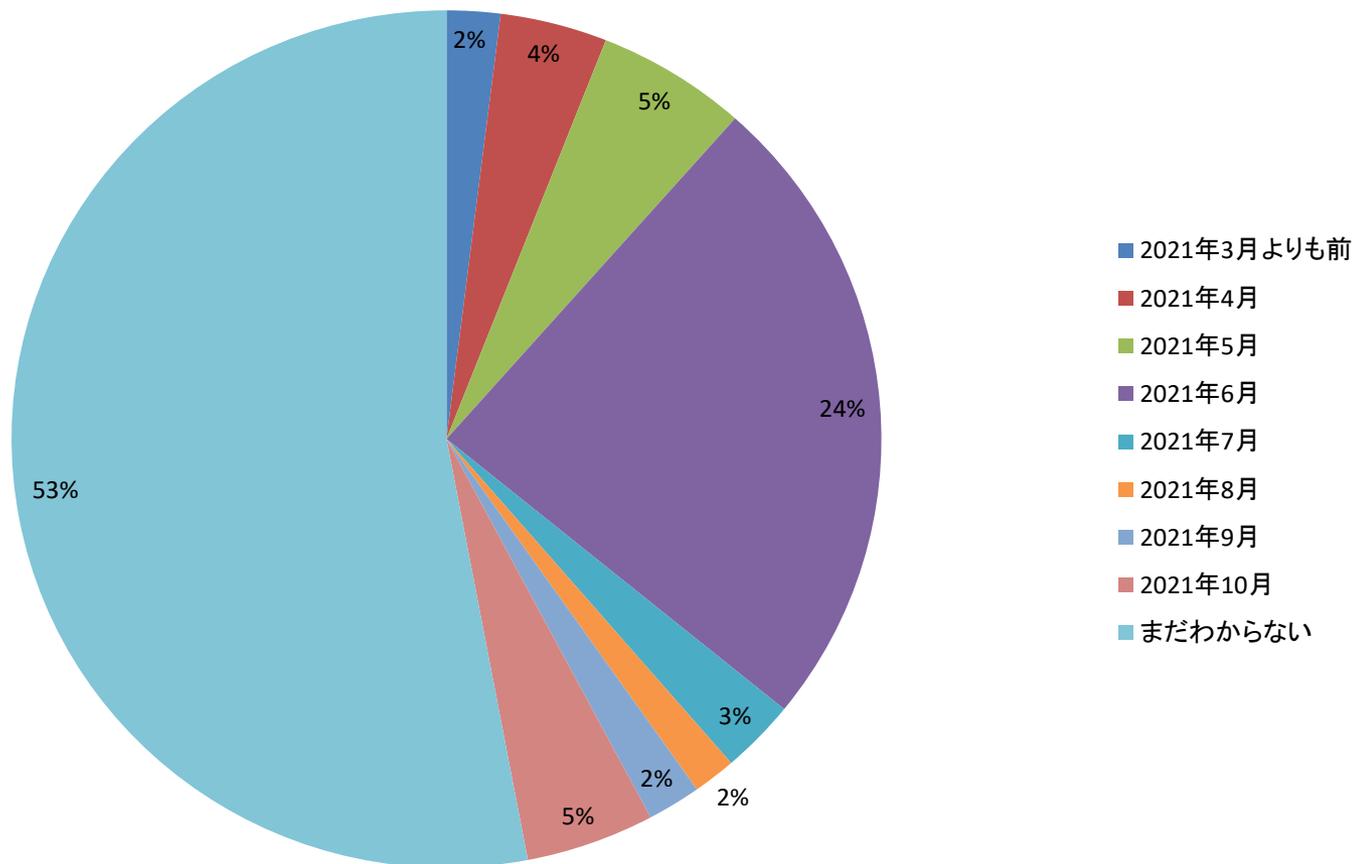
【非経団連加盟企業】



- 対面（企業本社など現場で実施）
- オンライン（web会議システムなどで実施）
- 対面とオンラインそれぞれのインターンシップを開催予定

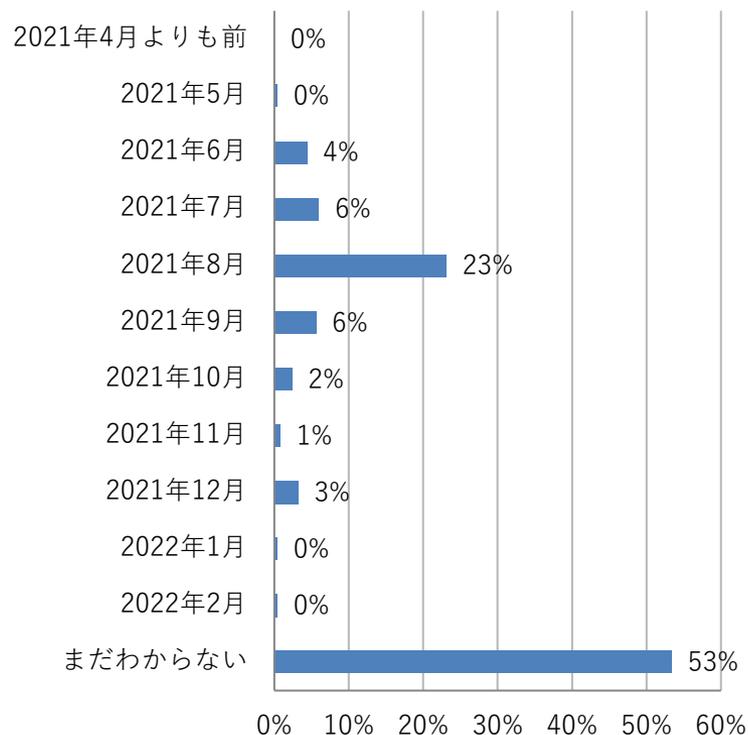
<23採用に向けて>

23採用に向けた告知は、「まだわからない」と回答した企業の割合が一番高い一方、6月に広報活動を開始する企業が全体の24%

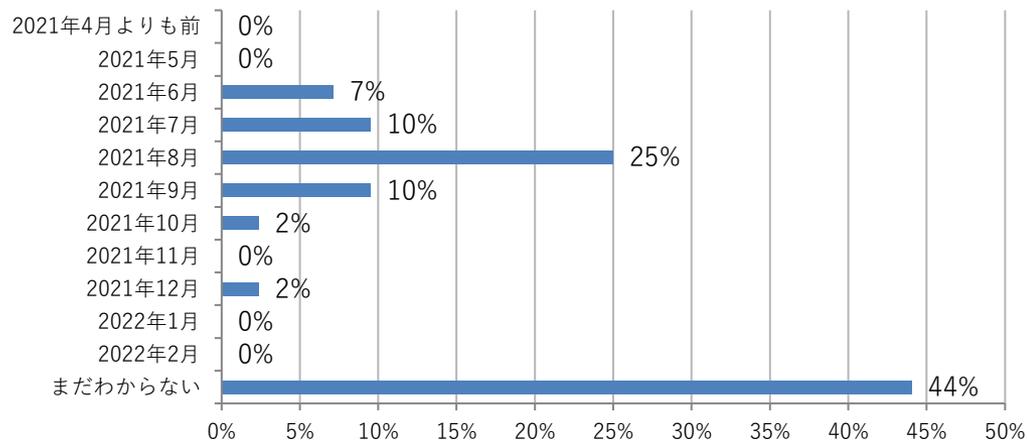


23採用のインターンシップの開催時期は、例年通り8月頃の開催になりそうだ。

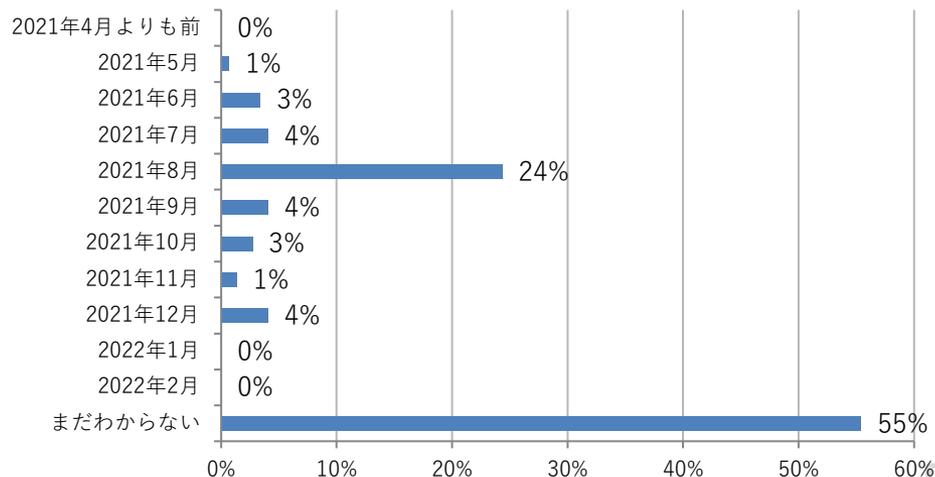
【全体】



【経団連加盟企業】



【非経団連加盟企業】



21採用内定出し以降の動き

21採用では新型コロナウイルスによる業績悪化を受け、連日報道があったように航空業界やホテル、飲食などサービス業界の企業などが21採用実施を中止する、内定を取り消すなどの動きを見せており、企業と学生ともに大きく混乱した。

その中で、この秋に実施された内定式ではオンラインでの実施をする企業が46%となっており、比率が最も高かった。しかし、この結果を経団連加盟企業と非経団連加盟企業に分けて傾向を見ると、内定式をオンラインで実施した経団連加盟企業は68%、非経団連加盟企業は36%。内定式を対面で実施した経団連加盟企業は27%、非経団連加盟企業は51%となっており、危機管理、企業イメージなどを気にした結果か、双方の間に明らかな差がでている。

一方、21採用の採用数と今後の22採用の採用予定数の違いに関しては、「昨年と同等」と回答する企業が58%と最も高く、経団連加盟企業と非経団連加盟企業の間に結果の差はほとんど見受けられない。

また、21採用の学生への対応とともに、全体の45%の企業が22採用のインターンシップ広報を「2020年6月」にスタートさせており、21採用、22採用を同時並行で走らせている状態にあった。

2020年6月～2020年9月末のインターンシップの開催実態

2020年6月から2020年9月末までの間にインターンシップを実施した企業は全体の52%で、経団連加盟企業と非経団連加盟企業の実施割合はそれぞれ69%と48%だった。実施の目的は「採用の母集団確保」を目的としている企業が多いが、次いで「企業理解促進」となっているため、早期から学生に対して企業理解を求めている。

また、2020年6月から2020年9月末の間でインターンシップを実施しなかった企業の過半数は「例年実施していないから」となっているものの、企業の中には「対面でインターンシップを開催したいため秋以降に延期」と新型コロナウイルスの影響で、採用市場が大きく変わっても、従来の手法を優先する企業が見受けられた。

インターンシップの実施についてはオンラインで実施した企業が経団連加盟企業、非経団連加盟企業ともに最も高かった。インターンシップをオンラインで開催したことにより、「地方学生との接点の増加」「応募者数の増加」が見受けられる結果が出ており、遠方であってもアプローチができる利便性や、別途調査した同時期学生アンケートでも、オンラインインターンシップのメリットとして「参加へのハードルが下がり、参加しやすい」という項目が上位に来ているため、安全性と効率化を図る上でのオンラインインターンシップは一定評価されていることがわかる。しかし、デメリットとしては「学生との双方コミュニケーション」「社風・雰囲気への訴求」などが懸念事項になっており、従来対面接触で学生に体感させていた内容についてはオンラインだけでは不十分だと考えている。併せて学生からもオンライン化に対して懸念していることは「社風や雰囲気がわからない」との回答が75%となっており、オンラインの接触だけでは伝えきれない、理解できないことが企業と学生ともにあることがうかがえる。

このようにインターンシップが実施される中で、企業のその後の動きは、全体の49%が「別インターンシップの案内」となっており、この時期に接触した学生へのフォローアップイベントを実施して本選考までつなぐ企業が多い中、「早期選考の招待」も45%と高い数値がでている。ここからこの時期に接触した優秀層に対しては早期囲い込みをスタートさせたい企業の思いがくみ取れる。

2020年12月から2021年2月末のインターンシップ実施予定状況

2020年6月から2020年9月末までにインターンシップを実施した企業が全体で58%であったが、2020年12月から2021年2月にインターンシップを開催を予定する企業の全体の割合は73%と大幅に伸びている。よって夏から継続的にインターンシップを開催する企業に加えて、この時期に22採用インターンシップを開始する企業も増えている。

また、2020年12月から2021年2月末までに行うインターンシップは2020年10月ごろに広報されているケースが多く、夏季、冬季問わず、少なくとも2カ月以上前には広報活動をおこなっているようだ。

インターンシップの開催形式については全体で「対面実施予定」が29%、「オンライン実施予定」が38%、「対面とオンラインをそれぞれ開催予定」が33%と実施形式は拮抗している。ただし、経団連加盟企業では「対面実施予定」は14%、「オンライン実施予定」が44%とオンラインでの実施が最も高いものの、次点で「対面とオンラインをそれぞれ開催予定」が41%でかなりの企業が学生に選択肢を持たせる形でインターンシップを開催する。一方、非経団連加盟企業は「対面予定」が39%、「オンライン予定」が34%、「対面とオンラインそれぞれを開催予定」が27%だったため意見がわかれる。同時期に行った学生調査ではこの時期のインターンシップの開催形式の希望について、「対面」が50%、「オンライン」が26%、「対面+オンライン」が24%となっており、企業と学生ともに夏季よりもより直接接触を意識する結果となった。

23採用のインターンシップ広報時期と開催時期

22採用が本格稼働している最中ではあるが、今後の23採用も22採用同様、企業は早期からインターンシップの母集団確保に動く予想される。現段階ではインターンシップ広報時期を未定とする企業が最も多いが、すでに24%の企業は「2021年6月」には23採用の広報開始を予定しており、例年と同じく「6月」には次年度採用の情報開示が多く行われるだろう。また、現段階での調査では2021年8月にインターンシップの開催を予定している企業が多いため、22採用と23採用のインターンシップ開始時期に大きな差はみられない。